



木童 東京支店 (平成 28 年 11 月より移転)

東京都新宿区西新宿 7-7-26 ワコーし新宿第一ビル 408
TEL: 03-5937-5069 FAX: 03-5937-5079
E-mail: tokyo@kodoh.co.jp

木童 神戸本社

兵庫県神戸市北区大沢町 437
TEL: 078-954-0072 FAX: 078-954-0257
E-mail: muku@kodoh.co.jp

★焼杉板の産地へ

日本で最も伝統的な外装材といえば「焼杉」、表面を焼いて炭化させることで、並材であっても永く家屋を風雨から守ることができる先人の知恵が詰まった良材です。木童でも変わらずカタログのレギュラーとして長く活躍していますが、その焼杉の供給が今、ピンチに！ 工場の設備の老朽化と配送条件の悪化により、生産状況が非常に不安定になっていました。これではいけないと、新たにサポートしてもらえる工場を求め、スタッフ総出で徳島へ・・・
やって来たのは、神戸事務所から車で約2時間、潮風が気持ち良い海のすぐ近くの加工場。



「ちょうど^{はざかいき}端境期で原料がいつもより少ない」と説明してくれたのは専務理事の橋本さん。しかしながら工場内外には加工待ちの原板がぎっしりと山積みされていました。

焼杉といえば、柱や梁を取った丸太の辺材から木取った白太中心の原料というイメージがありますが、こちらでは贅沢にも芯に近い赤身の部分から焼板として使用。炭化層はあるものの、板自身の耐久性、耐候性も考えての配慮です。

そこからさらに選別された板にサネ加工が施され、そして専用の釜にくぐらせること約10秒、ほどよく焼けた「焼杉」が送り出されてきます。

最後は一番大変な工程である節補修。加工時に木屑を固めた専用パテでひとつひとつ丁寧に埋めていきます。パテの硬化後は、補修箇所を確認しながらこれまた手作業でひとつひとつグラインダーで凹凸を削り取っていく念の入れよう。高品質のものを安定して供給していくには非常に手間暇がかかるもの。改善点など打ち合わせることはまだまだたくさんありますが、木童の考える品質を守りつつ、より良い製品にする希望が持て一安心して帰路につきました。



季節や気候により、送りローラーの速度を変えることで、焼き加減を調整します。

節補修の様子
薄く仕上げる焼板は、節も抜けやすいので補修も大変です。



★しっかり支柱 ^{しちやう} その② ~開発編~

相生杉の床材を作ってもらっている徳島県の平井製材所さん。こちらで防獣ネットの杉の支柱を開発、特許申請中です。前号でもご紹介しましたが、防獣ネットを急な斜面の山中に張り巡らす作業というのは、大変重労働で危険な上に、その後放置されることになるネット用のポールは環境にも優しくない、というのが問題でした。

そこで、支柱を得意の木製で作ろうと思いついたわけです。杉製の支柱は、ポールを立てる土台となる支柱部分のみを「低い位置で簡単に地面に打ち込むことが出来」、尚且つ杉製なので「そのまま山に放置されてもいずれは自然に還っていく」...という利点があります。

この開発中の杉の支柱と併せて杉製のポールも一緒に、宮崎県の森林技術センターというところで試用してもらい、実際に山の斜面に防獣ネットを張る所に立ち合ってきました。杭を打ち込む為の重い器具も必要なく、防獣ネットのポールを楽々と立てていくことが出来ました。実際の作業者は高齢化しているとも聞いているので、この方法により作業効率が高くなるとともに、作業者の負担も随分減るのではと期待できます。今後まだまだ改良されていく予定ですので、またご案内したいと思います。



★家づくり現場レポート① N邸 兵庫県西宮市/設計: OGAWA 建築研究所

1F~地下室までの改修工事に館くるみを使っていただきました。巾木や段板も共木で、玄関框だけは赤身の強い桜でご用意しました。コンクリート壁と無垢板の階段の組み合わせがモダンで、カッコイイ仕上がりになっていました。
“木が大好き”というお施主さんは「山桜」と「くるみ」とで迷われたそうですが、冬でも裸足が好きという方でしたので、山桜よりも柔らかく足ざわりの良いくるみの方を選んでもらって正解だったなと思います。



★家づくり現場レポート② F邸 東京都武蔵野市/設計: 川口通正建築研究所

約9年前、リビングダイニングに木童の土佐柾を使って頂いたF邸。今回は家族も増え、手狭になってきたとの事で、増築部分に土佐柾を新たに貼りました。土佐柾は暴れやすく、床暖房にはおすすりできない材ですが、設計士さんとお施主様の意向で採用して頂いています。力強い独特の木目が特徴で、増築部分との境目をみると一目瞭然。9年の月日が経った床は綺麗に飴色に焼けています。お施主様もこの木の表情をととても気に入って下さっています。



既存\増築部

★家づくり現場レポート③ M邸 神奈川県葉山町/設計: テントライン

約1年半前に計画を聞いてから始まった今回の物件。住まい手はこの物件の設計者でもあるテントラインの水口さんで、国産材を使った自邸兼アトリエにしたいというお話から、土台・柱には宮崎県の球磨杉・鉄肥赤杉、梁には島根県の石見赤松を使用しています。更に床には北海道産のやまと檜、壁の仕上げの一部には三重県のわらべ杉、浴室には能登半島の北前ヒバを使うなど、北から南まで全国の木を適材適所に使った、とても木の質感を感じる建物となりました。たくさんの木材を使ってありますが、全体としてはとてもシャープな印象で、設計者としての細かいこだわりゆえと感じます。完成見学会の時、水口さんが“自身で床や漆喰壁を塗装したことにより、良い勉強になった”と話していたことが印象的でした。宮崎に木材の工場見学に行った際にも、“これから建つ家の材料や加工・出荷前の姿を間近で見ることで受けた感動”というのが有ったそうで、これらの施主としての立場の体験が、今までの建築家としての立場からの視点にプラスされて、ますます良い設計をして行かれるのだろうなと思います。



梁: 石見赤松

壁: わらべ杉

浴室壁: 北前ヒバ

KODOH NEWS

■6/17(土)・7/8(土)は東京支店で無料住宅相談会を行います。※予約制となりますのでメールかFAXにてお申込み下さい。
※木童通信をHPよりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。